

一般社団法人四番隊
第3期 事業報告書
2024年度(2024年8月1日～2025年7月31日)

1. 緊急支援事業

【継続】令和6年能登半島地震における緊急支援および災害支援

活動時期:2024年1月2日～現在継続中

①石川県七尾市での支援活動

専門業務を行うスタッフを常駐させ、ニーズ調査を行いつつ、現地の自治体や他の支援団体と連携を取り、被災ゴミの搬出、運搬作業を実施。高齢者の多い地域の為、被災時のまま片付けのままだ家屋が多く、被災家屋の整理や被災ゴミの仕分け、ゴミの運搬ができない方々の支援を実施した。ブロック塀の基礎撤去やの解体、屋根の解体廃棄、外壁の解体廃棄などを実施。柱の修復や、剥がれてしまった外壁にブルーシートで養生、漏水箇所の修理など個別のニーズにも対応、被災者の生活環境の改善を図った。



②石川県穴水町での支援活動

崩れた屋根瓦の補修や屋根の養生、ブルーシート展張作業を実施。雨漏れの対応や、瓦が崩れてこないよう補修措置を行った。また地元ボランティアを育成するため技術指導を実施。高所での作業の為、安全に細心の注意を払い、ハーネスなどの装備の説明や作業時の危険性を十分に伝えるとともに、安全に作業を実施するための技術面での安全指導を実施。



③サロン活動の実施

地域イベントの運営補助や被災者向けに、避難所へ整体師を招いてストレッチ整体や、ロスフラワー(綺麗なまま廃棄されてしまう花)を用いたフラワーアレンジメント、鍼灸マッサージのイベントを企画し、ニーズ調査を行うとともに、被災者の心のケアを図った。長期化している避難生活に疲労や痛みの緩和とともに、被災者の声に耳を傾けると、今回の地震により若い世代が転居してしまい、高齢化が加速、「以前の生活に戻るのは難しい」という苦悩が多々聞こえてきた。



七尾市においては被災ゴミ置き場が早期に閉鎖してしまったため、ゴミを捨てることができずに困っている被災住民の声を届けるため、七尾市情報共有会議やJVOADと連携し情報共有を実施し、被災ゴミ仮置き場閉鎖に関する問題について取材や行政へ働きかけを行った。



※公益財団法人 JKA 2024 年度 非常災害等の支援(緊急支援) 補助事業

3 月 11 日～石川県で活動 補助対象期間:7 月 1 日まで

※赤い羽根共同募金 助成金

2024 年8月～2024 年 10 月

「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」第 3 回中長期助成事業 300 万円

2024 年 11 月～2025 年 1 月

「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」第 4 回中長期助成事業 300 万円

2025 年 2 月～2025 年 3 月

「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」第 6 回中長期助成事業 300 万円

2025 年 4 月～2025 年 6 月

「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」第 7 回中長期助成事業 300 万円

2025 年 7 月～2025 年 9 月(次期継続)

「ボラサポ・令和 6 年能登半島地震」第 8 回中長期助成事業 300 万円

【新規／継続】山形県酒田市における豪雨災害支援

活動時期:2024 年 7 月 26 日～現在継続中

①現地調査

発災翌日の 7 月 26 日に現地に向かい、7 月 27 日 28 日に秋田南部（横手市、由利本荘市、にかほ市）および山形県北部（酒田市、遊佐町、新庄市、舟形町）にて現地調査を実施。各市町の社会福祉協議会を回り、情報共有、情報提供とともに水害時のパンフレットを手配（震災がつなぐ全国ネットワークより郵送）。被災状況の確認と今後の支援活動の計画を進めた。



②災害ボランティアセンター運営補助

酒田市災害ボランティアセンターの運営補助を実施。オリエンテーション時に熱中症予防対策について指導し、ボランティア参加者の安全確保に努めた。ボランティアのコーディ

ネットを行い、参加者の役割分担を調整した。特に夏場の活動において懸念された熱中症のリスクについては、酒田市災害ボランティアセンターからも相談を受け、対策を強化した。

「建設業等における熱中症予防指導員および管理者研修講師」の資格（建災防 修了証番号 1418）を有している弊団体代表の伊藤は、この知識を活かして、初めてボランティアに参加する方々への安全注意事項や作業内容の説明を担当した。さらに、ボランティア活動に関する注意点を徹底指導し、作業中のリスクを最小限に抑えるためのリスクアセスメントを実施した。

また、ボランティア参加者へ配布する物資の仕分けを行い、クーラーボックスに水や塩飴、おしぼり、マスク、軍手などを準備した。泥出し作業に必要な一輪車やスコップなどの資機材の仕分けも行い、作業が円滑に進むよう整えた。災害ボランティアセンター閉設時には、使用した資機材の返却作業を行い、酒田市から新潟市へのトラック輸送を担当した。



③山形県酒田市における支援活動

- ・ ニーズ調査

一軒ずつ訪問し、被災者の具体的な要望や問題点を把握した。

- ・ 浸水家屋の家財搬出、被災ゴミの仕分け運搬

- ・ 作業前の事前養生作業

一般ボランティアが作業しやすいよう動線確保や、家屋や家財の棄損、汚損防止のための養生を実施。

- ・泥かき、泥出し、土砂撤去、断熱材や床材の洗浄消毒作業
- ・床剥がし、壁剥がし、断熱材除去、サーキュレーター設置乾燥作業
- ・作業家屋の事後訪問
- ・ボランティア参加者への技術指導および安全教育

電動工具の使い方、浸水家財の搬出方法（腐敗してしまった畳や布団類）廃棄家財の解体方法、体調不良時の対応法などを指導。



※公益財団法人JKA 2024年度 緊急的な対応を必要とする事業への支援 補助事業
活動時期：7月25日～12月31日(1月以降サロン活動を定期的開催)

④山形県酒田市におけるサロン活動

11月から酒田市災害ボランティアセンターは酒田市被災者生活支援・地域支えあいセンターの業務の一環に変わり、酒田市社会福祉協議会と連携し、酒田市にてサロン活動を実施。

鍼灸マッサージでは心身の不調を何うとともにニーズを聞き出し、1人20分程度で施術を実施。フラワーアレンジメントのサロン活動では、流過程や販売過程でまだ綺麗に咲いているのに廃棄されてしまうロスフラワーを活用しており、その後、コーヒーやお茶を飲みながら参加者の皆さまからたくさんお話を聞かせていただきました。



【新規】石川県における奥能登豪雨災害支援

活動時期：2024 年 9 月 22 日～12 月 21 日

令和 6 年 9 月 21 日から 23 日にかけて、秋雨前線や線状降水帯の影響により石川県奥能登地方を中心に記録的な豪雨が発生しました。この豪雨により、輪島市河井町や新橋通では河原田川が氾濫し、泥水が住宅街に流れ込み、多くの家屋が被害を受けました。また、門前町の深見川も氾濫し、家屋が泥水に浸かる深刻な被害が生じました。自宅を完全に失った方や、2 階部分まで浸水した家屋の住民も多く、被災者の生活に深刻な影響を及ぼしました。道路は少しずつ改修されてきているものの、被災者宅の公費解体が進んでいないのは明白であり、1 月の瓦礫も残ったまま、被災地の人たちにとっても一向に景色が変わらない状況ですが、ようやく避難所から仮設住宅へ移ることができる人たちが増え、少しずつではあるが、復興に向かって進んでいると感じることができていた矢先に発生したのが奥能登豪雨災害でした。

仮設住宅に入ったばかりの被災者が、仮設住宅も浸水してしまったため、避難所に戻るようになった方も多く、まだ復興のめどはついていない状況であります。多くの被災者が打ちひしがれており、再建をあきらめようとしている方もいらっしゃいました。

ボランティア団体として少しでも被災者が前向きになれるような活動を実施。遠方からも技術ボランティアスタッフを集め、泥かき、ポンプによる排水、家財の搬出、片付け、床剥がし、泥出し、壁剥がし、屋根の養生、トイレや洗面台、エアコンなどの取り外しなど普段のスキルを活かした作業、ニーズ調査、現地調査、ボランティアのコーディネートを実施しました。また、泥がまだ道路や各家庭にある中ではあったが、至急被災者の心のケアが必要と判断し、被災者に寄り添ったコーヒーサロンも実施。少しでも早期復旧につなげることを目指しました。

活動内容

- 泥かき・排水・家財搬出・片付け
- 床・壁の剥がし作業、設備取り外し、仮復旧処置

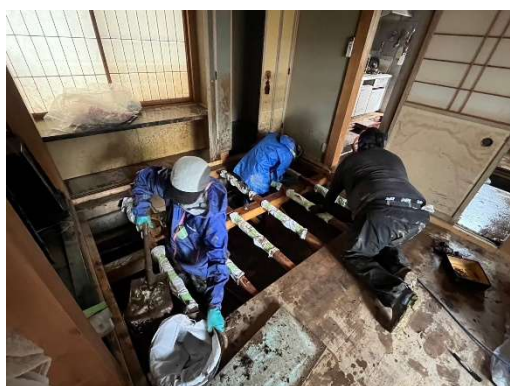
- 技術指導と安全管理
- 心のケアを目的とした「コーヒーサロン」の実施
- 他団体との連携によるニーズ調査・物資支援
- 保険・見積もりに関する助言支援

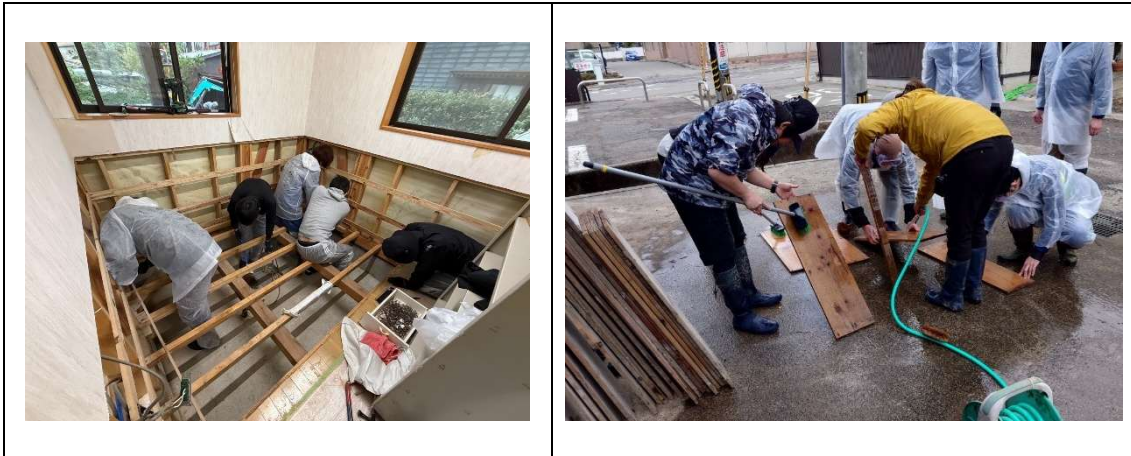
成果

奥能登豪雨災害では、私たちは被災地支援として、ハード面とソフト面の両方から多角的に活動を行いました。ハード面の作業では、現地調査やニーズ調査を実施し、被災家屋の復旧に取り組みました。各家庭の家財道具を外に運び出し、泥や埃を拭き取る作業を行った後、床を剥がして床下の泥を取り除き、乾燥・消毒作業を実施しました。壁の清掃や剥がし作業、断熱材の撤去、越冬を見据えた仮復旧処置も進めました。一部では大工の不足もあり、ボランティアが中心となって壁や床の解体作業に加え、キッチン、トイレ、給湯器などの設備の取り外しまで対応しました。作業が困難な状況でも、これまでの地震対応の経験や技術を活かして、復旧の流れや手順を他のボランティアへ指導しながら安全に進めることができました。しかし、作業量に対してボランティアの人手が不足しており、引き続き人材育成と支援体制の拡充が課題です。

また、ソフト面として心のケアを目的として、コーヒーサロンを実施しました。泥や埃の中での調理を避け、能登地震対応拠点でコーヒーを仕込み、ポットサービスとして輪島へ持ち込みました。この取り組みにより、「元気が出た」「感謝している」といった多くの声が寄せられ、涙を流す被災者もいました。被災者同士の交流の場にもなり、互いに状況を報告し合い、前向きなコミュニティが生まれるきっかけを提供できた点も大きな成果でした。

また、他のボランティア団体との連携を図り、現場のニーズを調査。必要物資としてポータブル電源を手配するなど、後方支援も実施しました。さらに、損害保険の知識を活用し、被災者への対応方法や見積書の作成方法を伝えたことで、現地のボランティア活動の質を高めることにも貢献しました。





【新規】岩手県大船渡市における山林火災災害支援

活動時期:2025 年 3 月 27 日～4 月 6 日

令和 7 年 2 月 26 日に岩手県大船渡市で発生した山林火災において、現地調査および支援活動、また奥州市との災害協定の打ち合わせを実施した。

1-2. メディア出演

・堀潤 J-WAVE 「JAM THE PLANET」 ラジオ出演

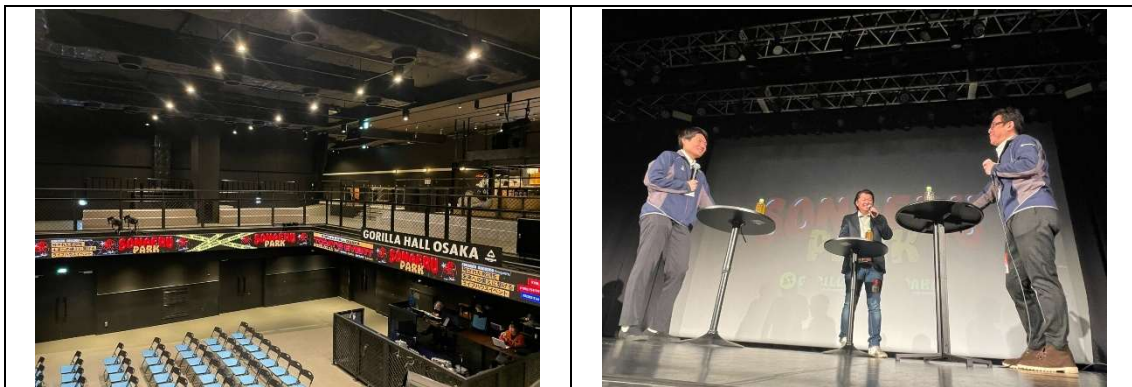
2024 年 8 月 1 日に、ジャーナリストの堀潤氏のラジオ番組にて、山形県と秋田県で大きな被害が出た記録的な大雨から 1 週間が経過した現地の状況はどうなっているのか、被災地で暮らす方たちは、どのような支援を必要としているのかを伝えた。

・2025 年 1 月 20 日 山形新聞

「大雨被害に負けない 花を生け心を潤す」
(山形県酒田市)



(山形県酒田市)



【新規】第25回「東京レジリナイト」(講師:代表理事 伊藤 純)

2025年5月21日、防災・減災についてのアイデアや悩みを広く共有し、ゆるく、しなやかに暮らしのなかで多様な人とつながるための「東京レジリナイト」で、代表理事が「災害支援のリアル～現場の課題と安全管理」をテーマに災害支援活動の実情や現場での安全管理について、経験をもとに講話した。

講師: よん(伊藤 純)氏(一般社団法人四番隊 代表理事)

講座名: 「災害支援のリアル ～現場の課題と安全管理」

開催時間: 18時30分～20時30分

開催場所: 防災科学技術研究所 東京会議室

第25回 東京レジリナイト

2025年5月21日(水)

講師: よん(伊藤 純)氏
一般社団法人四番隊 代表理事

講座名: 「災害支援のリアル
～現場の課題と安全管理」



●講師プロフィール

よん氏は、災害支援団体「四番隊」の代表理事として、災害時の緊急支援や復旧支援、防災啓発活動に尽力されています。2011年の東日本大震災をきっかけに支援活動を開始し、2022年には四番隊を一般社団法人として設立。被災地での物資配布や技術系作業を中心に、地域の復興を支える活動を展開しています。

「義を見てせざるは勇無きなり」という理念のもと、平日は会社員として働きながらも、災害発生時には迅速に現地に駆けつける姿勢を貫いています。防災減災の啓発活動や講演会の開催にも力を入れ、幅広い層に向けて防災意識の向上を目指しています。

●一般社団法人四番隊について

一般社団法人四番隊に関する詳細は、以下のリンクをご覧ください:

<https://yonbantai.com/>

【新規】「熱中症予防講座」おらっちや七尾(講師:代表理事 伊藤 純)

2025年6月3日、民間災害ボランティアセンターおらっちや七尾に向けて、オンラインで熱中症予防講義を実施した。「建設業等における熱中症予防指導員および管理者研修講師」の資格(建災防 修了証番号 1418)を有している弊団体代表の伊藤は、この知識を活かして、ボランティアに参加する方々向けに内容を精査し、熱中症に関する法令や熱中症のメカニズムだけでなく、ボランティア参加者が熱中症にならないための具体的な対策(ドリンクの飲み方やセルフチェック方法)や応急措置などを伝えた。

【新規】「災害ボランティアのための熱中症予防教育」(講師:代表理事 伊藤 純)

開催日時:6月12日(木) 19:00-20:30 主催:震災がつなぐ全国ネットワーク

各地で支援活動を行う支援者が、安全かつ継続的に活動を行えるよう、熱中症予防に関する正しい知識を共有することを目的に、オンライン研修会を開催。災害支援の現場に精通し、かつ熱中症予防指導員の育成にも携わる一般社団法人四番隊(震つな会員)代表の伊藤純が、最新の法令動向と実践的な予防策を講話。

内 容:

- ・労働安全衛生規則の改正内容とその背景
- ・災害ボランティア活動における暑熱環境のリスク
- ・現場で実践できる熱中症予防策(装備・水分補給・行動管理)
- ・ボランティアリーダーが知っておくべき安全管理の視点
- ・質疑応答・情報交換

【新規】小型車両系建設機械の運転の業務に係る特別教育(講師:代表理事 伊藤 純)

2025年5月24日～25日に災害ボランティア向けに行う特別教育として、災害時の復旧支援で小型の重機を扱える人材を増やすため小型車両系建設機械(整地・運搬・積み込み用及び掘削用)の運転の業務に係る特別教育を実施。学科と重機を用いた実技の講義を行った。



【新規】災害ボランティア入門講座(講師:代表理事 伊藤 純)

2025年6月28日、渋谷区社会福祉協議会と連携し、渋谷区役所にて「災害ボランティア入門講座」を開催。「技術系ボランティアが教える～災害ボランティア入門～」をテーマに、代表の伊藤がボランティアの基礎から現地で活動しているメンバーとリモートでつないでの活動状況の報告を行い、ボランティアに参加してみようと思う方々向けの講義を行った。



しぶやボランティアセンター PRESENTS

Shibuya Volunteer Center

参加費 無料

2025
6.28(土)
10:00～12:00

災害ボランティア 入門講座

会場 渋谷区役所 8F会議室

渋谷区宇田川町1-1

6月6日(金) 申込み開始 (20名先着)

(((ゲストスピーカー)))

東京都災害ボランティアセンター
～アクションプランについて～
東京ボランティア・市民活動センター
間瀬 達成 さん

技術系ボランティアが教える
～災害ボランティア入門～
一般社団法人 四番隊 代表
伊藤 純 (よん) さん

お問い合わせ

しぶやボランティアセンター
☎ 03-6452-5065
✉ vc-shibuya@tokyo.email.ne.jp
🌐 <https://vcshibuya.jp/>

お申込みはこちら ▶

